

---

# 権太

茄子野郎

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

権太

### 【Nコード】

N2275Q

### 【作者名】

茄子野郎

### 【あらすじ】

村の荒くれ者の権太は三日前に自分が悪党だったことによつやく気づいた。

村で一番の荒くれ者の権太は古い藁の家の前で緊張していた。  
手には小さな贈り物を抱えている。

「なんてことだ…俺はとんでもない悪党だったのか…」  
三日前によく気づいたのだった。

自分が無意識のうちにとんでもない罪を犯してきたのかもしれない  
ということに。

権太は長年好き勝手この村で生きてきた。

一番お世話になっていた善良な市民が作った畑を食い荒らし、  
彼らが善意で与えてくれた大根やいもなどの野菜に全く感謝もせず  
むしろ俺様にそうするのは当然のことだと傍若無人にこの村で振  
舞っていた。

善良な市民の気持ちを全く分かっていなかったのだった。

彼らが自分のしたこととでどれだけ不安になり、どれだけいろいろ  
なことを考えたか

三日前によく少し、本当に少しだが分かったのだ。

一番お世話になった彼らに謝りたいと思った。

自分が悪党だったことに気づいたのは自分に届いた贈り物をみて  
からだった。

前々から貰えることは分かっていたがそのときはまだ気づかなか  
った。

いや、薄々は分かっていたのかもしれない。

だが権太は恥ずかしいことにそれを見て初めて、確信したのだっ

た。

間違いなく自分は悪党だったと。

そしてこの贈り物でさえ、彼ら無しでは決して貰えなかった物だった。

これを彼らに見せよう。きっと喜んでくれるはずだ。

彼らも同じように家の中で緊張して待っているだろう。

権太は家の中に入り、緊張しながら彼らにそれを見せた。すると見せたことのないくしゃくしゃな笑顔で喜んだ後、涙声で言った。

「権太、いい父親になるんだよ……」

権太は贈り物を一生守っていく決心をするとともに、この人たちをもっと大事にしたい 初めてそう思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2275q/>

---

権太

2011年1月18日19時24分発行